



中国語が 1週間で

いとも簡単に
話せる

ようになる

本

ゼロから始めた
私があなたを
助けます

加藤 勤

Tsutomu Kato

これから中国語を始めたいと思っているあなたへ。
最初の1冊目は本書からスタートしてください。
ゼロから始めた私が、日本人学習者の立場で
7日間で基本会話ができるコツを教えます。

はじめに

私が中国語を勉強しようと思ったのは大学3年の時でした。1990年代の前半で、日本の企業が中国に目を向け始めていた時です。とはいえ、大学での専攻は中国とまったく関係ないものだったので中国語の授業はありませんでしたし、周りに中国語を勉強している人もいませんでした。

ちょうど4月だったので、NHKのテレビ中国語講座を毎週見ることにして、半年くらいしたころ、台湾に旅行に行きました。台湾には現地の友人がいたので中国語を使ってみたのですが、相手は困った顔をするばかりで通じません。「やっぱり中国語は難しいなあ」と思ったものの、帰ってからは中国語の勉強は続けました。

台湾では通じなかったので、もう一度リベンジしようと、大学を卒業する時に中国語の話せない友達と2人で2週間ほど中国をバックパックで旅行しました。2年間の努力の成果があって、今度は少しは通じるようになっていました。当時の中国は英語を話せる人はほとんどいませんでしたから、それこそ必死で中国語を話しながら旅を続けました。

上海からバスで6時間以上いったところに、黄山という、水墨画の世界のようなすばらしい風景の観光地があるのですが、そこに行った時の話です。

日本人のバックパッカーは他にも大勢来ていて、そこでたまたま一緒になったバックパッカーの日本人は、中国語は全然勉強したことがないのに、一人で旅行しているという人でした。自分の

話ばかり一方的にする人で、日本で会っていたら、たぶん友達にはなっていないだろうな、というタイプの人です。

その彼は中国人にも同じ調子で一方的に話しかけていました。メチャクチャな発音の中国語で、「こんなの絶対通じるわけがない」と思って聞いていたのですが、なぜか結構通じるのです。

「まったく中国語を勉強していないコイツが通じるなんて、オレの2年間の努力はなんだったんだ！」と思いましたが、不思議に思ってよく聞いてみると、彼は耳で覚えた単語をそのまましゃべっているの、子音の発音は全然できていませんでしたが、四声は中国人と同じように発音していたのです。

それが、私が本書のテーマである四声がわかれば中国語が通じる!と思ったきっかけでした。それがわかってから、自分の中国語もドンドン通じるようになり、将来は中国語が活かせる仕事をしたいと思いながら日本に帰ってきたのでした。

その後、大学を卒業して就職するのですが、海外とはまったく関係のない仕事をしているうちにだんだん中国語とも遠ざかっていきました。日々の仕事に没頭する中、最初は続けていた中国語の勉強もいつの間にかやめてしまいました。

そんな状況を変えたのは妻の一言でした。「せっかく今まで勉強していたのにもったいないから、また始めてみたら？」ちょうど家の近くに大学があつて、中国人の留学生もたくさんいたので、週1回、留学生に中国語を教わることにしました。

延べ3年くらい勉強した時に、転機がありました。当時、私はブックスタマという書店チェーンの社長をやっていましたが、ある出版社の社長さんの講演を聴く機会がありました。その出版社

は中国への進出に積極的で、その講演から3か月後に北京に絵本の専門店を開くというのです。

私はその社長さんにアポイントメントを取り、大変興味があると直接お伝えしたところ「ぜひ絵本のお店のオープンを見に来てください」と言っていただきました。

久しぶりに訪れた中国はすでに経済の高度成長を迎え、私が大学生の時に行った国とは大違いでした。街を歩く人々は活気にあふれ、書店を見ると、カートに何十冊も積んで買い物している人がたくさんいます。「いつか中国で書店をやりたい」私が中国語を勉強する目的は、だいぶ具体的なものになりました。

それから5年、中国で書店をやりたいという私の夢はまだ実現していませんが、今年は駐在事務所を北京に設立しました。

そんな私は中国語の先生でもなんでもありませんが、自分でゼロから中国語を勉強した経験をもとに、皆さんにぜひ通じる中国語を話す秘訣をお伝えしたいと思い、この本を書くことにしました。

2010年は上海万博で中国観光がブームになったかと思えば、尖閣諸島問題で反中国ムードも一気に高まりました。中国が好き、嫌いにかかわらず、中国の存在は日本にとって無視できないくらい大きくなりました。

この本を読んでいたいただいた皆様が、中国をよりよく理解し、これからの人生で成功をつかまれることを切望いたします。

加藤 勤

目 次

はじめに

1 日目 中国語はこんなコトバです

1 中国語を始める前に	12
2 文字について（簡体字）	13
☆ 簡体字とは	
3 単語について	15
☆ 同じ文字でも違う意味	
4 発音について	17
☆ 通じない理由は「四声」	
5 四声の実践 1	21
☆ 1文字の単語を発音してみよう	
一声／二声／三声／四声	
6 四声の実践 2	24
☆ 日本語になっている単語を発音しよう	

2 日目 2文字の発音

1 中国語のツボは「2文字」の発音	30
2 「一声」で始まる2文字の単語	31
☆1 〔一声 + 一声〕	
☆2 〔一声 + 二声〕	
☆3 〔一声 + 三声〕	
☆4 〔一声 + 四声〕	
3 「二声」で始まる2文字の単語	35
☆5 〔二声 + 一声〕	
☆6 〔二声 + 二声〕	
☆7 〔二声 + 三声〕	
☆8 〔二声 + 四声〕	
4 「三声」で始まる2文字の単語	39
☆9 〔三声 + 一声〕	
☆10 〔三声 + 二声〕	
☆11 〔三声 + 三声〕	
☆12 〔三声 + 四声〕	
5 「四声」で始まる2文字の単語	43
☆13 〔四声 + 一声〕	
☆14 〔四声 + 二声〕	
☆15 〔四声 + 三声〕	
☆16 〔四声 + 四声〕	

3日目 中国語の文(1)

1 「～は～です」	50
(気持ちや状態を表す表現)	
2 「～は～です」	52
(英語のbe動詞にあたる表現)	
3 「～は～します」	54
4 「～は～ではありません」	57

4日目 中国語の文(2)

1 「～を持っています」「～があります」	64
2 「了」の使い方	69
(～しました)	

5日目 中国語の疑問文

1 「吗」疑問文	80
2 反復疑問文	82
3 「もの」をたずねる疑問文	84
4 「人」をたずねる疑問文	86
5 「場所」をたずねる疑問文	88
6 「時間」をたずねる疑問文	92
7 「理由」をたずねる疑問文	94
8 「様子」をたずねる疑問文	96

6日目 中国語の助動詞

1 可能(～できる)	102
2 許可(～してもよい)	104
3 経験(～したことがある)	106
4 希望(～したい)	108
5 命令(～してください)	110

7日目 中国語会話 実践編

1 あいさつ①	114
あいさつ②	116
あいさつ③	118
2 レストランで①	120
注文する／味について／会計する	
レストランで②	124
3 タクシーで	128
4 電話で	130
5 ショッピング①	132
ショッピング②	136
服などを購入	
6 観光①	140
観光②	142
7 病気	144
8 友達になる、恋人になる	148
映画の話題／相手にたずねる	
相手をほめる言葉、けなす言葉	

コラム

- | | | |
|---|-------------------|-----|
| 1 | 「r」の発音 | 27 |
| 2 | 上海は「サンハイ」 | 47 |
| 3 | カラオケで練習 | 61 |
| 4 | 国が変われば、代表曲も変わる | 77 |
| 5 | 酢豚、麻婆豆腐は中国にない？ | 91 |
| 6 | 三国志の名文句が6文字に | 99 |
| 7 | 裸の日本人 | 112 |
| 8 | 中国語が話せる人にだけ優しい中国人 | 158 |

カバーデザイン：株式会社ヴァイス 目黒 眞
本文デザイン：アスカデザイン室 末吉喜美
本文イラスト：パステル工房 望月慎一

1日目

中国語は
こんなコトバです



1 日目 1 中国語を始める前に

『中国語が1週間でいとも簡単に話せるようになる本』をお買い上げいただき、ありがとうございます。1週間で中国語を話せるようになるなんて、ユメのような話ですよね？

1週間で中国語をすべてマスターするのは無理な話ですが、「話して通じた！」という喜びを味わうことは可能です。

旅行や仕事で中国に行ったり、はたまた中国人のお客さんや友人を日本に招いたりするとき、一言二言でも中国語で話をして通じた時はうれしいものです。相手の方もあなたによい感情を抱くことでしょう。

今、本屋さんで売られている中国語のテキストを開くと、最初からムズカシイ「発音表」が出てきて、思わず尻込みしてしまうものが多いです。もちろん中国語を本格的に勉強するには大切なことですが、通訳になるのであれば、カンペキに中国人と同じように話せる必要はないでしょう。

語学の勉強は覚えることが多いのでモチベーションを持続するのが難しいです。私は「通じた！」という喜びが語学の勉強の最大のモチベーションになると思っています。「通じた！」という喜びを味わうには、中国語の場合、覚えるポイントがわかっていれば1日でも勉強すれば十分かもしれません。

この本は1週間の中国語の勉強で「通じた！」の喜びをどこまで最大化できるかにチャレンジしています。この本で一人でも多くの方が中国語を身近に感じ、中国を好きになっていただければ幸いです。

1 日目 2 文字について（簡体字）

☆ 簡体字とは

● ポイント解説 ●

中国語の文章は、ほとんどすべて漢字で書かれています。日本語なら平仮名、カタカナ、アルファベットも時々出てきますが、中国語は漢字ばかりです。

また、その漢字も日本とは少し違うのにお気づきになったことがあるでしょう。中国では簡体字（ジェンティーツー）というものを使っています。たとえば

車	车
動	动
中華	中华

左が日本の漢字、右が中国の漢字です。なんとなく似ていますが、全然違いますね。

もともとは日本も中国も同じ漢字を使っていました。（というか、漢字はもともと中国のもので、まだ文字を持たなかった日本が中国から導入したものです。）

しかし、第2次世界大戦が終わって、国民すべてに文字を覚えさせるために、漢字を簡単なものに省略して整理しようとするときに、日本と中国の政府がそれぞれ違うやり方で簡略化したために、別々な文字を使うようになってしまいました。

中国の簡体字は、日本の漢字よりも、より省略されています。中国の13億人の人口全員に文字を覚えさせるために、中国政府もできるだけ文字を簡単にしようと考えたのでしょう。13億人の中にはウイグルやチベットなど、普段はほかの言語をしゃべっている少数民族もいます。

全く漢字を初めて見る人には、右の簡体字の方が左の日本の漢字より画数も少なくて簡単に見えるでしょう。

書	书
鳥	鸟
機	机
門	门

よく日本でも「門」という字を省略して「门」と書く人がいますね。簡体字も慣れれば違和感はなくなりますし、簡体字を書いてみると日本の漢字より画数が少ないので、早く書いて便利です。

1日目 3 単語について

☆ 同じ文字でも違う意味

● ポイント解説 ●

まったく中国語を知らない人でも、中国人とコミュニケーションをとる方法があります。それは筆談です。

「電話」「車」「旅館」など、日本語を書いて、そのまま中国人に通じる言葉は多いです。「自由」とか「理想」のような抽象的な言葉ほど、日本語と共通しています。(これは幕末や明治時代に日本人が英語を日本語に翻訳した言葉が、そのまま中国語で使われているケースがあるからでもあります。)

ところが、日本語と同じ漢字を書いても、意味が全然違う単語もあります。

手紙 (トイレットペーパー)

「手紙」は、中国語では「信」(シン)

湯 (スープ)

「お湯」は、中国語では「热水」(ラーシュエ)

汽车 (自動車)

「汽車」は、中国語では「火车 (フオチャー)」

爱人 (夫や妻)

「愛人」は、中国語では「情人 (チンレン)」

便箋がほしいと思って「手紙」と書いたら、トイレトペーパーが出てきた…というのはよくある笑い話です。

この本を読んで基本的な会話を覚えれば、こんな間違いをする心配はありません。



1 目 目 4 発音について

CD
01

☆ 通じない理由は「四声」

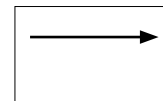
ポイント解説

中国語を勉強して、いざ中国人に話しかけても全然通じない…。中国語は難しいって思っていないですか？

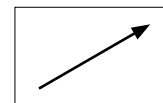
通じない最大の原因は「四声」ができていないためです。逆に、四声がわかっていれば、発音が悪くても結構通じます。その「四声」とは何でしょうか？

中国語には「一声」「二声」「三声」「四声」の4つの声調（イントネーション）があります。

一声 mā



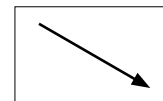
二声 má



三声 mǎ



四声 mà



この四声（イントネーション）が違くと、
同じ「マー」でも意味が全く違ってしまいます。

四声（イントネーション）を耳で理解していただくために、四声（イントネーション）で意味が変わる言葉をいくつか挙げてみました。CDで発音を聞いて、違いを実感してください。

妈	mā	(一声) おかあさん (マー)
马	mǎ	(三声) ウマ (マー)

书	shū	(一声) 本 (シュー)
树	shù	(四声) 木 (シュー)

杯子	bēizi	(一声) コップ (ベイツ)
被子	bèizi	(四声) ふとん (ベイツ)

なんだか難しいな…と思っている方にひとこと。日本語にも「四声」のようなものはあります！

たとえば、

「橋（はし）」と「箸（はし）」

「雨（あめ）」と「飴（あめ）」

「高校（こうこう）」と「孝行（こうこう）」

「先生（せんせい）」と「宣誓（せんせい）」

「辞典（じてん）」と「時点（じてん）」

「バンダイ」と「番台」

などなど……。

発音がまったく同じでも、イントネーションで意味が全然違ってしまふ言葉が日本語にもたくさんあります。日本語においても単語の識別にイントネーションは重要な役割を果たしています。

『日産』や『ホンダ』を外国人が発音するとNissan, Hondaとなりますが、日本人からすると不自然で違和感を感じる発音ですね。

中国語も四声を正確に発音しないと、中国人にとっても不自然で聞き取りづらい印象を与えるのです。



1 日目 5 四声の実践 1

CD
02

☆ 1 文字の単語を発音してみよう

ポイント解説

「四声」がわかれば、必ず中国語は通じます！

四声を口で覚えてもらうために、まずカンタンな単語から発音してみましょう。

中国語には「1 文字の単語」がたくさんあります。その中から、一声、二声、三声、四声のものをそれぞれピックアップしてみました。

〈一声〉

他	tā	(ター)	彼
车	chē	(チャー)	車
妈	mā	(マー)	お母さん
宽	kuān	(クアン)	広い

ビジネス書&語学書

著者の本音!

立ち読みデータはここまでです。
続きはぜひ、書店さんでお求めください。

- ・ アマゾンでのお求めは、[こちら!](#)
- ・ 紀伊國屋書店でのお求めは、[こちら!](#)
- ・ e-hon でのお求めは、[こちら!](#)
- ・ 楽天ブックスでのお求めは、[こちら!](#)
- ・ 本やタウンでのお求めは、[こちら!](#)

突撃
インタビュー

